

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

スピーカーL

・噴水の音がきこえる、噴水はみえない。まあこうしてきいていると、雨がむこうをとおりに過ぎてゆくよう。

・踊っているわ。窓に影がうごいている。踊りの影でもって窓が暗くなったり明るくなったりする。妙にしずかだこと。

・おや、鈴が鳴った。車の音と蹄の音が……。どなたの馬車でしょう。きょうはまだ宮様のおいでがなかったけれど、あの鈴は宮家のじゃない。……まあ、この庭の樹の匂い、暗くて、甘い澱んだ匂い……

・何がふしぎ？

・さあ言ってごらんあそばせ。あなたの仰言りたいこと、とっくにわかっておりましてよ。

・きれいだ、と仰言るおつもりでしょう。それはいけないわ。それを仰言ったら、お命はわありません。

・お命が惜しかったら、およしなさい。

・奇蹟なんてこの世のなかにあるものですか。奇蹟なんて、……第一、俗悪だわ。

・あら、あたくしに皺なんてありまして？
(→スピーカーR スタート)

スピーカーR

・何だってあとをつけて来たんだい。わたしに文句があるのかい。

・あんたは、あれだろ、商売は詩人だろ。

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

・あたりまえだわ、皺だらけの女のところへ、百夜がよいをする殿方がありますものか。……さあ、妙なことをお考えにならないように、踊りあそばせ。踊りあそばせ。

・お疲れになって？

・お顔色いろがわるいわ。

・ご挨拶ね。

・それなのに……

・どうしてそんなに浮かぬ顔を。

・どうなすったの？

・家の中へかえりましょうか。

・音楽が止んだわ。中休みの時刻だわ。……
静かだこと（音楽止む。老婆独白へ）

・まだ若いんだね、ふん、しかし寿命はもう永くない。死相が出ているよ。

・どうだかね、人間の顔はいやってほどたくさん見て来たがね。……お座り、足もとが危なっかしいじゃないか。

・わかった、ここはあんたの、商売の縄張りなんだね。

・あんたの詩のタネあさりの縄張りなんだね。

・今に俗悪でなくなるんだよ。むかし俗悪でなかったものはない。時がたてば、又かわってくる。

・若い者はほんとに理屈が好きなんだ。

・ばかばかしい。何だって、そんなものを尊敬するのさ。だから、そんな根性だから、甘ったるい売れない歌しか書けないんだよ。

・そうともさ、九十九年生きていて、まだこのとおりぴんしゃんしてるんだもの。

・よく見てごらん。

・やっとないつらは生き返ったね。

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

・いいや、人間が生き返った顔を、わたしは何度も見たからよく知っている。ひどく退屈そうな顔をしている。あれだよ、あの顔だよ、私の好きなのは。……昔、私の若かった時分、何かぼうーっとすることがなければ自分が生きてると感じなかったもんだ。われを忘れているときだけ、生きているような気がしたんだ。そのうち、そのまちがいに気がついた。この世が住みよくみえたり、小っぼけな薔薇の花が、円屋根ほどに大きくみえたり、とんでいる鳩が人の声で、歌っているようにみえたりするとき、……それこそ世界じゅうの人がたのしそくに、「おはよう」を言い合ったり、十年前からの探し物が戸棚の奥からめっかったり、そんじょそこの娘の顔が皇后さまのようにみえたりするとき、……死んだ薔薇の樹から薔薇が咲くような気のするとき、そんなときには、……いや、そんな莫迦げたことも若いころには十日にいったんはあったもんだが、今から考えりゃあ、私は死んでいたんだ、そういうとき。……悪い酒ほど、酔いが早い。酔いのなかで、甘ったるい気持のなかで、涙のなかで、私は死んでいたんだ。……それ以来、私は酔わないことにした。これが私の長寿の秘訣さ。

(独白終わりで、「何を考えていらっしやるの」)

・何を考えていらっしやるの？

・どこでお目にかかるのでしょうか。お墓の中でしょうか。多分、そうね。

・ひろいお庭、ガス燈、ベンチ、恋人同士…

…

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

・あたくしは年をとりますまい。

・八十年さき……さぞやひらけているでしょうね。

・そのころこんな静かなお庭が、東京のどこかに残っているかしらん。

・そうすれば鳥がよろこんで棲みますわ。

・木のぼりをして見わたすと、町じゅうの燈りがよく見えて、まるで世界中の町のあかりが見えるような気がするでしょう。

・約束って？

・そりゃあ、ああまで申しましたものを。

・殿方にとっていちばんおそろしいのは、そのお気持ちかもしれないわね。

・そんならやめておおきあそばせ。

・生甲斐？ 冗談をおいででないよ。こうして生きているのが、生甲斐じゃないか。私は人参がほしくて駆ける馬じゃあない。馬はともかく駆けることが、則に叶っているからさね。

・自分の影から目を離さずにね。

・影が歪んでくる。まぎれっちまう、宵闇に。

・むかし小町といわれた女さ。

・そうだよ、あんたは仕合せ者だ。……しかしあんたみたいなとんちきは、どんな美人も年をとると醜女になるとお思いだろう。ふふ、大まちがいだ。美人はいつまでも美人だよ。今の私が醜くみえたら、そりゃあ醜い美人というだけだ。あんまりみんなから別嬪だと言われつけて、もう七八十年この方、私は自分が美しくない、いや自分が美人のほかのものだと思い直すのが、事面倒になっているのさ。

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

・お気の進まないものを、無理になさってもつまりません。

・取越苦勞がおすぎになるわ。

・ええ、何とも思いません。又別の殿方が百夜がよいをおはじめになるでしょう。退屈なんぞいたしませんわ。

・つまらないことを仰言いますな。

・人間は死ぬために生きてるのじゃございません。

・まあ、俗悪だわ！俗悪だわ！

・前へ……前へお進みになるだけですわ。
(演者の動きをここで何かしらつける)

・かったじゃない。今も別嬪だよ。

・八十年前……私は二十だ。そのころだったよ、参謀本部にいた深草少将が、私のところへ通って来たのは。

・莫迦をお言いな。あんたの百倍も好い男だ。……そうだ、百ぺん通ったら、思いを叶えてあげましょう、そう私が言った。百日目の晩のこった。鹿鳴館で踊りがあった。私はあまりのさわぎに暑くなって、庭のベンチで休んでいたんだ。

・見ててごらん、当時飛切の俗悪な連中がやって来るから。

・そうさ、さあ、あの人たちにおくれをとらないように、ワルツを踊ろう。

・わすれちゃいけない。あんたは深草少将だよ。

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

・まあ、酔っていらっしゃるんだ。

・ありえないことなんか、ありません。

・それを仰言ったら命がないわ。何がふしぎなの。あたしの顔が？ ごらんなさい、こんなに醜いでしょ、皺だらけでしょう、さあ、目をしっかりひらいて。

・ごらんなさい、ぼろぼろだわ。臭いでしょ、そら虱がいてよ。この手を見てごらん、こんなにふるえている。皺の中に手があるようよ。爪が伸びている。ごらんなさい。

・さあ、ごらん、この茶いろくなった垢だらけの胸を。女の胸にあるものは何もありはしない。さがしてごらん！ さがしてごらん！ お乳なんかどこにもなくてよ。

・私は九十九だよ。目をおさまし。じっと見
ててごらん。

・思い出した？

・私は九十九だよ。目をおさまし。じっと見
ててごらん。

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

・ああ、言わないで。私を美しいと云えば、
あなたは死ぬ。

・つまらない。およしなさい。そんな一瞬間
が一体何です。

・言わないで。おねがいだから。

・ああ、あなたの目がきらきらしてきた。お
よしなさい、およしなさい。

・そんなこと言って後悔しないの。

・ああ、あなたは莫迦だ。眉のあいだに死相
がもう浮かんできた。

・あんなに止めたのに……

・もう百年！

・もう百年！

koto-ba II - そとば -
music theater for soundfile and performer

・ さあね、大分前からのようだがね。

・ それじゃ今しがた、息を引き取った証拠ですよ。

・ もう三十分も前ですかね。酔っぱらってやってきて、私に色気を出しやがるんですよ。

・ 何がおかしいんだよ。ありがちのことですよ。

・ いえね、うるさいからかまわずにおいたんですよ。そうしたらしばらく一人でぶつぶつ云ってて、そのうちに地面にたおれて、寝込んでしまった様子でしたよ。

・ ちゅうちゅうたこかいな。……ちゅう、ちゅう、た、こ、かい、な、と。……ちゅうちゅう、たこかいな。……ちゅうちゅうたこかいな。